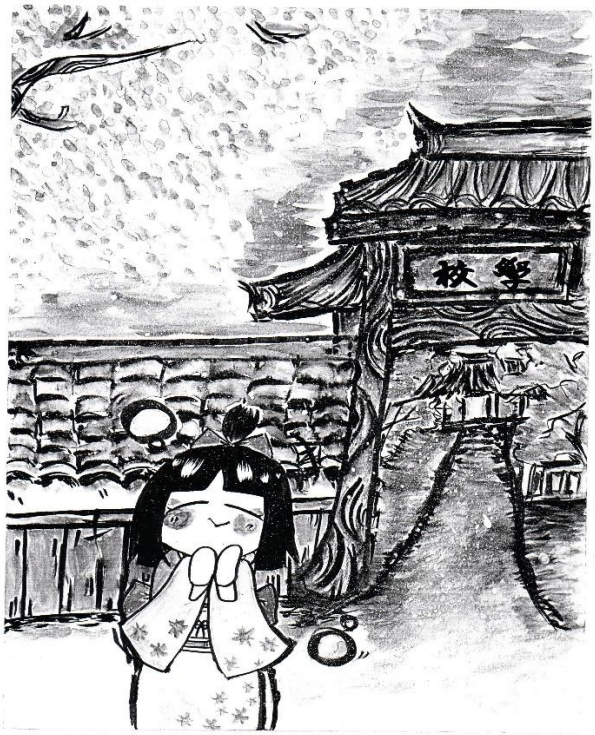
足利風 -ashikaga-fu

2024
春号
Vol.89



画：伊村恵利佳

足利市民活動センター

開館時間：平日　１０：００～１９：００
休館日　：土・日・祝日・第３月曜日

〒326-0052
栃木県足利市相生町１－１
　足利市生涯学習センター３Ｆ
TEL　0284（44）7311
FAX　0284（44）7312
Mail　info@shimin-act.jp
HP　http://www.shimin-act.jp

HP QR コード

☆　ご案内　☆

＊特集！
「桜さく～バサラ・ばさら・・・と。」
＊言葉のあやとり
「EIMY」
＊私のボランティアことはじめ
「あなたが大事」
＊マチのちゃぶ台
「THE ART OF 北の郷物語の開催」
＊INFORMATION

＊特集！＊　　「桜咲く～バサラ・ばさら・・・と。」

「さくら」という詩が、茨木のり子にある。「私が一番きれいだったとき」と同様に、桜の花のような散り際のみごとさを讃えられて、戦争に散っていった男たち、その男たちをただ見送るしかなかった女たちの痛切な思いが託されている・・・。

ことしも生きて　さくらを見ています
ひとは　生涯に　何回ぐらいさくらをみるのかしら
ものごころつくのが十歳ぐらいなら
どんなに多くても七十回ぐらい　三十回　四十回のひともざら
なんという少なさだろう
もっと　もっと多くみるような気がするのは
祖先の視覚も　まぎれこみ重なりあい霞だつせいでしょう
艶やかと妖しとも不気味とも　捉えかねる花のいろ
さくらふぶきの下をふららと歩けば
名僧のごとくにわかるのです　死こそ常態
生はいとしき蜃気楼と

私の家の庭にも御衣黄（ギョイコウ）の緑色の桜が今年も咲いた。桜をこよなく愛した作詞家・作家なかにし礼に、「さくら伝説」という小説がある。
・・この千年桜が見下ろしてきた時間の長さと重さを思い私は気が遠くなった。見上げれば、桜がささやきかけてくる。桜が手招きをする。桜に手繰り寄せられる。桜がおおいかぶさってくる。こちらの呼吸が乱れてくる。息苦しさに立ち去ろうとすると、桜は妖しく嗚咽する・・。
この桜は奈良県最大の最古の古木で、奈良宇陀の地なる、エドヒガンとヤマザクラの雑種であるモチヅキザクラの一種で、宇陀仏隆寺にある桜だ。
　婆娑羅・・バサラと、咲く桜の妖しさにそれぞれが・・「生はいとしき蜃気楼」とばかりに酔いしれる。・・どこかで、だれか、呼ぶような・・。

（M生）

＊言葉のあやとり＊　　「ＥＩＭＹ（energy in my yard）」

２０年ほど前、東北大学名誉教授・新妻弘明氏が提唱した地産地消の energy を推奨する言葉だ。ケニヤのワンガリ・マータイの「もったいない＝ＭＯＴＴＡＩＮＡＩ」運動が世界的な広がりをもったのにつづいて、日本語の環境問題への言葉になると期待された。「もったいない」の次は「ＥＩＭＹ」を！

＊私のボランティアことはじめ＊

「あなたが大事！～芸術の再現者～」

久保田　寿美子

皆さん、楽譜を振ってみてください。どのような音がするでしょうか？暑い日は、団扇代わりで風が心地よいかもしれません。中に書かれているものがベートーヴェン作曲の交響曲であっても、かさ～かさ～となるばかり。どのような素晴らしい芸術作品が書かれていても、音楽は再現芸術です。その音符を読み、奏でて初めてその芸術が私たちの前に現れます。

私は男子高校としての足利高校最後の１５年間、音楽担当として、生徒達と良き時間を過ごさせていただきました。ある時出会った CD の曲（不来方高校合唱部の混声四部合唱）をどうしてもやりたくて、楽譜を探しました。残念ながらその楽譜は絶版になっていて、中古も見当たらず・・・・それでもやりたい気持ちが勝り、CD を聴いて楽譜を書きました。そしてその曲の練習日、手書きで見にくくてゴメンナサイ！とともに、こう話しました。「楽譜は大切にしよう。楽譜がなかったら演奏できない！でも楽譜があっても、演奏する皆さんがいなかったら、苦労して書いた楽譜もただの紙です。芸術作品（音楽）もあなた達がいてはじめてその姿を現します。どうぞ素敵な作品たちをこれからもこの世の中に目覚めさせてください」と。

昨年度、新市民会館の基本構想策定委員に応募して一般委員の一人として勉強させていただきました。大切な活動の場である新市民会館の早期建設を心から望んでいますが、それと同時に、そこを使う市民の皆様の市民活動など足利の芸術やいろいろな活動の灯が消えてしまうことを危惧しています。場所ができても中身がなかったら意味がありません。建設までの今、芸術の灯を消さぬよう、頑張っていきましょう。私は合唱団を２団体、指導させていただいています。団員の皆さんが継続して活動できるようにやり方を変えて、今年度、再スタートしました。

そして・・・は、６０歳を超えて、宝生流の謡を習い始めました。何歳になっても新たなことは人生をより楽しくしてくれます！おすすめです！なんと、最年少です。

＊マチのちゃぶ台＊　「〝THE ART OF 北の郷物語〟の開催」

民（俗史）話『北の郷物語』は、ふるさとおこしを懸けた取り組みとして、開発・宅地化の進展で隅に追いやられ、失われつつある地域の記憶や先祖の知恵に寄り添い、かき消された声なき声、形にならない人の心象を書き留めることで懐かしい郷土の風景（風土）の再現を目指してきました。平成１３年から文芸誌の足利文林で連載を開始し、廃刊後は足利市文化財愛護協会の会報へ紙面を移して継続するとともに、過去の連載話から時節に合った内容を選り抜き、身辺雑記を交えて地元の北郷公民館だよりに並行連載する一方、わたらせテレビでも番組化され放映されています。また両毛新聞、AN タイムズなど複数紙で再連載され、多くのあたたかな反響と応援団に支えられながら、昨年１０年ぶりに 4 集を刊行しました。そして今秋、足利市民活動センターで関連するマップ、リーフレット、ライセンスフリーの商品開発などのビジュアルにスポットを当てた企画展『THE ART OF 北の郷物語』を開催します。民俗記録では、写真の真実性に対し、絵が持つ情緒描写が本質に迫れるとの評価もあり、文字で伝えきないものを補う視覚的要素に位置付けられています。これまでの〝歩み〟をもとに構成したアートワークによる民俗メディアに関心を持っていただければ幸いです。　（中島太郎）

＊INFORMATION＊

※コロナ感染対策により内容が変更・中止になる場合があります。）

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんとご一緒に、ワイワイガヤガヤ・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。

★令和６年４月２０日（土）　ＰＭ1：００～3：００
＊本：「やすらへ。花や。」（萩岡良博）
＊案内人：　鈴木　光尚　さん
＊ひとこと：どこかで、だれか、呼ぶような～咲きそめ、咲き誇り、はらはらと舞い散る私の桜に誘われて、心が騒げば・・・西行の古典和歌や近現代の名歌などを渉猟し桜を味わいつくす。喜びあふれる桜のエッセイ。お楽しみください！

★令和６年５月 17 日（金）　ＰＭ2：００～4：００
＊本：「岡本かの子と岡本太郎」
＊案内人：　日下部　悲天　さん
＊ひとこと：太陽の塔で有名な岡本太郎。そのモデルは、母である岡本かの子と言われている。瀬戸内寂聴の出世作「かの子繚乱（りょうらん）」は、歌人・仏教研究家・小説家の岡本かの子の天衣無縫にして稀有な生涯を描いた傑作。かの子と太郎の豊潤な芸術の根源を探ります！

■参加費：無料
■会　場/問い合わせ：足利市民活動センター☎４４－７３１１

☆企画展（交流コーナー）　（土・日・祝日・第３月曜日は休館日）

＊４月　１日（月）～　４月１１日（木）　足利リビルドの会展
＊４月１６日（火）～　４月２５日（木）　NPO 法人ピースサポート協会展
＊４月３０日（火）～　５月　９日（木）　ＳＤＧｓの世界展
＊５月１３日（月）～　５月２３日（木）　ワールド・フード・イラスト展
＊５月２７日（月）～　６月　６日（木）　足利の職人技展
＊６月１０日（月）～　６月２０日（木）　彩美会水彩画展
＊６月２４日（月）～　７月　４日（木）　足利古写真と銘仙展
※展示時間・・・１０：００～１９：００　ただし最終日は１５：００まで

☆相談室＆講座　※詳しくは、別紙参照

＊相談室　＝　４月１０日（水）14：00～16：00「足利歴史まちあるき」
５月１１日（土）11：00～13：00「わが青春のレッドナインの日々」
６月１２日（水）14：00～16：00「上手にスマホを使いたい」
＊講　座　＝　４月２４日（水）14：00～16：00「SDGｓと農業」
５月２２日（水）14：00～16：00「SDGｓと子ども支援」
６月２６日（水）14：00～16：00「自治会活動を考える」

編集後記

法華経に曰く「草も木も人も同じ水を飲む」～今は昔、通産省（現・経産省）の仕事で、山形県の活性化の仕事をしたことがある。置賜地域にだけ百基ほどの｛草木供養塔｝があった。感動した。人の業（ごう）として、牛・豚・鶏だけでなく米・麦つまり稲などの“いのち”をいただいて、人は“生かされている”のだ。親鸞の嘆異抄「善人なほもって往生をとぐ、いはんや悪人をや・・」を以来読みつづけている。尚、センターでは新鮮力に感謝、感謝の日々である。　（カサブランカ）